

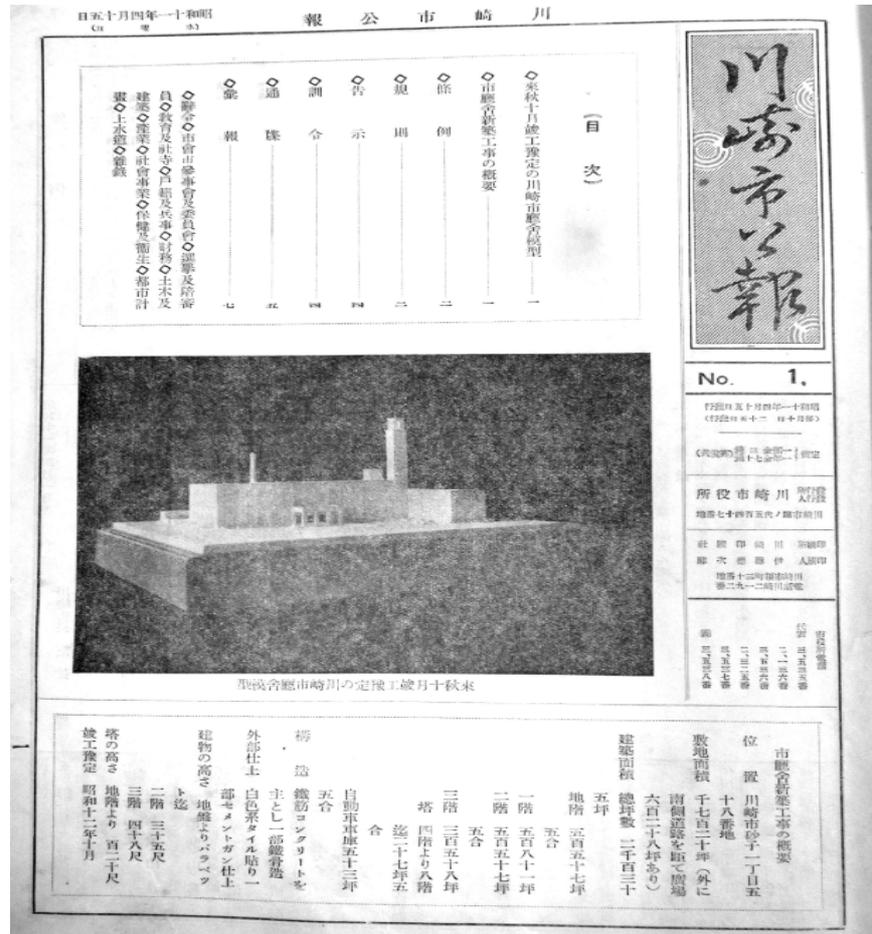
川崎市公文書館だより

~Kawasaki City Archives News~



KAWASAKI CITY

第31号 平成27年2月



川崎市公報第1号

公文書館は公文書、古文書のほかに、市政資料等も多数保管しています。

川崎市公報の第1号は昭和11(1936)年4月25日に発行されました。トップを飾るのは市庁舎完成模型写真です。地上3階建て、塔の高さは地階より120尺(1尺=約30cm)あり、ランドマークとして存在感があったのではないのでしょうか。総工費575円、約1年半の工事により昭和13年2月には盛大な竣工式が開催されています。

次頁からは、「条例」など行政情報の記事があります。職員の辞令に給与の額が記載されていることは、現在から見ると驚きます。その他、市会、選挙の広報や国勢調査、財務などの統計情報、保健衛生のお知らせなどが掲載されています。徴兵検査の日程があるのには時代を感じます。

毎月2回発行で、一部3銭ですが、年間購読すると70銭と2銭お得になります。ちなみに現在の購読料は年間10,800円です。

このような市民生活に密着した過去の行政資料から、当時の様子を知ることができます。業務関係や興味がある事柄について調べてみると新しい発見があるかもしれません。

公文書館では、今後も保管している資料等を紹介してまいります。

発行 川崎市公文書館

聞いて損はない！？古文書のつづやき⑨～名主の引継文書(案)～



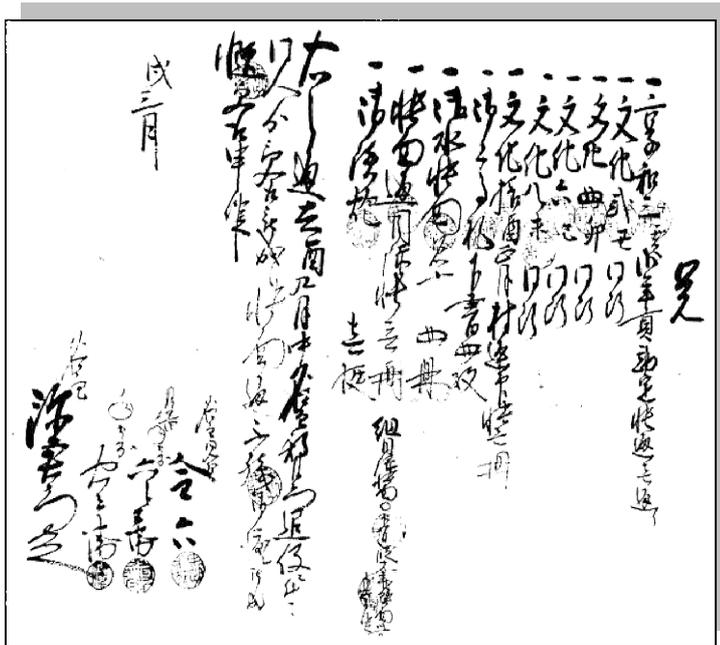
おひさしぶりです。古文書でございます。

年度末が近くなると各所で卒業や異動、退職と言った別れの季節がやってきます。

その際に前任者が後任者へ仕事内容や重要書類の受け渡しといった「引継」が行われます。

江戸時代の名主も例にもれず、文書類を渡していました。

今回は実際にこういったものが引き継がれたのか見ていきます。



端裏書

『覚（名主新左衛門退役につき文書引継証文）』
 〈志村文雄氏所蔵文書 60-9-91〉

この史料は王禅寺村真福寺谷の名主新左衛門が文化 10 年(1813)9 月に名主を退役したため、名主見習である金六が、新左衛門より翌年 3 月に帳面を受領したことを記した文書です。

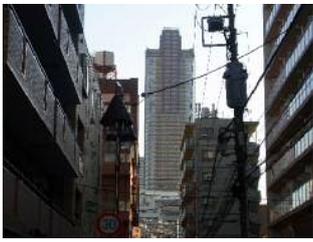
ここでは享和 3 年と文化 2,4,6,8 年の御年貢勘定帳、文化 10 年の村連印帳、法度や触書を札に書き掲示した御高札下書、検地結果をまとめた御水帳、帳面通目録帳、御鉄炮などを受け取ったことが分かります。

他にも史料内では、引き継いだ品と「帳面通不残（のこらず）御渡シ」「慥（たしかに）受取」の箇所へ金六の印鑑が、証人として月番年寄の六郎兵衛、年寄の忠兵衛の印鑑が捺印されています。

以上のことから帳面の引継ぎが欠かせない行為であり、また帳面は村政に携わる名主にとって重要書類であったこと、さらに名主が年貢や土地管理、支配側からの法度・触書の通達といった仕事を担っていたこともうかがえます。

もちろん実際には上記のような帳面だけではなく、一紙文書や公的・私的にわたる内容のものがあり、当時の人々が大事であると考えた多くの文書が現代に引き継がれ、保存されています。

その結果、私たち古文書が皆様と出会うことができるのです。昔の人に感謝です！



公文書館の散歩道



東京都心部や横浜へのアクセスに恵まれている中原区で、武蔵小杉駅周辺は再開発や平成 22 年の JR 横須賀線武蔵小杉駅の開業により、利便性が向上したことで新たな住民が増えています。駅前には超高層ビルや大型商業施設が立ち並び、ここ十年ほどで様相が一変しています。そんな小杉周辺で、かつての面影を残す場所を散策してみました。小杉駅からホームが覗ける新丸子駅、その東口の通りには映画館があり、館名からモンブラン通りと呼ばれていました。

映画全盛の昭和三十年代は大人の喫煙天国で、煙草の煙がスクリーンの前に霞みのように漂っていた時代です。その煙にむせた記憶とともに、思い出のワンシーンが甦ります。

商店街を歩いていると、ふいに赤い大きな鳥居が見えてきます。「京濱伏見稲荷神社」です。なんと 108 体の狐の像が社殿を取り囲んでいます。白狐、黒狐、親子や夫婦らしい狐たちが様々なポーズを取っています。



境内のすべての狐を探し出して、間違わず数えられると、ご利益があるかもしれません。

春風が狐をなでる稲荷前(おさんぽびと)

かつてこの辺りは「丸子三業地」と呼ばれた花街で黒塀の料亭が立ち並び、その路地裏からは粋な三味の音が流れてきたものです。

昭和 50 年代以降になると寂れたが、最盛期には料亭 20 数軒、100 人以上の芸妓が居たと言います。花街は夜ともなると提灯の灯やネオンが輝き、華やいだ中にも危なげな空気に包まれます。芸者衆の艶やかな姿に見とれたことを思い出します。その活気と繁盛ぶりは「丸子の花火」と共に、地域に語り継がれています。数軒の古い家屋が記念碑のように残った通りを歩き、路地から路地を抜けて小学校近くの駄菓子屋の辺りに出ると、学校帰りの子どもたちの声が響いています。ふと声の先を見ると、高層ビルの谷間には当時と変わらぬ雲が流れていました。

三味の音をかっつて運んだ春の風(春風二句)

〔三業地〕

「料理屋」「待合」「芸妓屋」の三業が集まって営業している地域の俗称。花街とも呼ばれる。

中級古文書講座実施報告



「江戸時代の寺社と川崎市域の人々」と題して、1月18日から2月8日までの各日曜日、全4回の日程で中級古文書講座を開催しました。崩し字の読解だけではなく、川崎の地域の寺社がそこに暮らす人々とどのようなかかわりを持っていたのか、当時の神社仏閣の役割を古文書の記述から読み解き、地域の歴史を学ぶ講座は、講師の菅野洋介先生（市川歴史博物館学芸員／駒沢大学非常勤講師）から御用意いただいた詳細な資料と熱心な講義により、寺院の管理と住職の認定方法、朱印状に見る江戸時代の儀礼、泉澤寺と中原街道についてなど、盛りだくさんの内容で、受講者から「また開催してほしい。」「回数をもっと増やしてほしい。」など、高い評価をいただきました。

刊行図書のご案内

川崎市史

- | | | |
|-----|---|--------------------|
| 資料編 | 1 | (考古、古代・中世の文献、美術工芸) |
| | 2 | (近世) |
| | 3 | (近代) |
| | 4 | 上 (現代 行政・社会) |
| | 4 | 下 (現代 産業・経済) |
| 別編 | | (民俗) |
| 通史編 | 1 | (自然環境、原始・古代・中世) |
| | 2 | (近世) |
| | 3 | (近代) |
| | 4 | 上 (現代 行政・社会) |
| | 4 | 下 (現代 産業・経済) |



なお、価格は資料編・別冊は各4, 500円、通史編は各4, 300円、
販売場所は、公文書館・市役所情報プラザです。

◇開館時間

午前8時30分から午後5時まで

◇休館日

毎週月曜日

祝日法に定める休日（休日が月曜日に当たるときは火曜日も休館です。）

年末年始（12月29日から1月3日まで）

◇利用方法

市政資料室の資料は自由にご覧いただけます。それ以外の資料は、目録で検索し事務室にお申し出ください。ただし、資料の外部への持ち出しはできません。

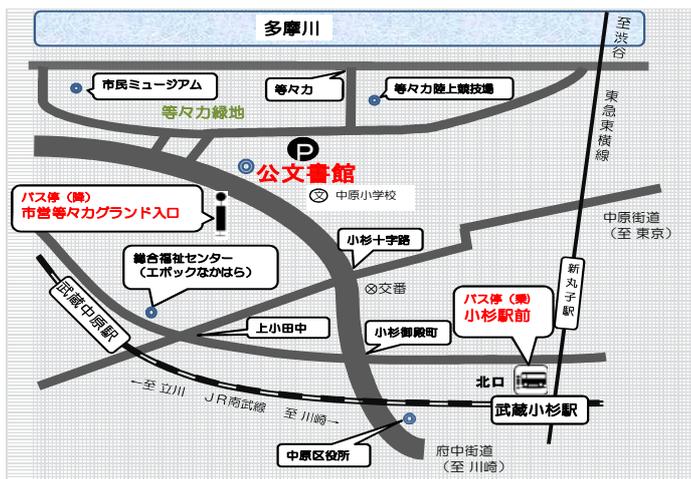
資料等の複写サービス（実費）は、館内のコピー機がご利用いただけます。

公文書の閲覧については、情報公開制度により行います。

◇交通のご案内

【バスの場合】

- JR南武線・東急東横線「武蔵小杉駅」・市バス、東急バスともに「小杉駅前」から「市営等々カグランド入口」下車すぐ
- JR横須賀線「武蔵小杉駅」新南改札・東急バス「横須賀線小杉駅」から「市営等々カグランド入口」下車すぐ
- JR南武線「武蔵溝ノ口駅」・東急田園都市線「溝の口駅」駅前（北口）
・市バス「溝の口駅前」及び東急バス「溝の口駅」から「市営等々カグランド入口」下車すぐ



【徒歩の場合】

- JR南武線「武蔵中原駅」から約15分
・「武蔵小杉駅」から約20分
- 東急東横線「新丸子駅」から約15分

川崎市公文書館

〒211-0051 川崎市中原区宮内4-1-1

電話 044-733-3933

FAX 044-733-2400

E-mail 16koubun@city.kawasaki.jp

ホームページ <http://www.city.kawasaki.jp/shisetsu/category/19-4-0-0-0-0-0-0-0-0.html>